

8年ぶり市税収入増、景気回復を反映

問合先 財政課

●特別会計

- (有線放送電話) 受託工事収入の増等により黒字
- (国民健康保険) 保険給付費等が増加したものの、国民健康保険税、県支出金等の増により黒字
- (介護保険) 保険給付費等が増加したものの、介護給付費準備基金の取崩し、県支出金の超過受入分等により黒字
- (老人保健医療) 医療諸費は減少したものの、支払基金交付金も減少したため2千9百万円の赤字
- (公園墓地整備事業) 繰越金の増等により黒字

特に、今後、保険給付費等の伸びが見込まれる国民健康保険、介護保険、老人保健医療の3会計は、歳入の一部を一般会計からの繰入金に頼っているため、特別会計の歳出の伸びは、一般会計の負担を増大させることとなります。

会計名	歳入	歳出
有線放送電話特別会計	4,791万2千円	2,124万8千円
国民健康保険特別会計	44億44万3千円	42億8,539万6千円
介護保険特別会計	28億8,028万3千円	28億6,170万4千円
老人保健医療特別会計	46億3,924万9千円	46億6,826万9千円
公園墓地整備事業特別会計	2,346万6千円	407万円

●企業会計



① 水道事業会計

収益的収支は、昨年度に比べて、下水道事業関連の収益・費用が共に減少し、1億6千万円の純利益となりました。

建設改良等に係る資本的収支は、2億7千万円の収入不足となり、内部留保資金（現金支出を伴わない減価償却費等）等で補てんしました。

現在、1m³の水道水を家庭や工場に送るのに266円（税抜）の費用がかかるのに対し、料金収入は263円（税抜）です。

収益的収入	13億8,146万9千円
支出	12億2,490万6千円
資本的収入	2億6,575万8千円
支出	5億3,875万円
資産	115億8,388万円
負債	3億858万3千円
資本	112億7,529万7千円

② 下水道事業会計

収益的収支は、昨年度に比べて、事業収益のうち一般会計からの補助金や使用料が増加したものの、減価償却費等の費用が増加したため、3億7千万円の純損失です。また、資本的収支についても、6億5千万円の収入不足となっています。現在、1m³の汚水を処理するのに636円（税抜）の費用がかかるのに対し、料金収入は171円（税抜）となっています。

下水道事業は、平成20年度の完了に向けて事業を推進していますが、同時に、下水道経営の健全化も図らなければならず、今後もさらに厳しい財政運営が求められています。

収益的収入	16億7,081万8千円
支出	20億4,271万5千円
資本的収入	23億4,598万8千円
支出	29億9,684万8千円
資産	541億5,559万2千円
負債	14億5,755万9千円
資本	526億9,803万3千円

③ 病院事業会計

収益的収支は、昨年度に比べて、医業収益のうち外来収益で増収となったものの、入院収益では診療単価の減額により減収となり、2億6千万円の純損失となりました。資本的収支については、企業債償還金の増加等により、1億2千万円の不足となりましたが、内部留保資金で補てんを行っています。患者1人1日当たりの診療単価は、入院で3万4千円、外来で1万3千円となっています。

収益的収入	59億176万2千円
支出	61億5,960万4千円
資本的収入	2億4,004万7千円
支出	3億6,286万円
資産	57億7,673万3千円
負債	6億4,304万4千円
資本	51億3,368万9千円